

かみ がた かい わい え し さい さい
上方界限、絵師済々Ⅱ

The Multitude of Painters in the Kansai Region II

2021年7月3日(土)～8月22日(日)

※会期中一部展示替えがあります



中之島香雪美術館は、2021年7月3日(土)より、「上方界限、絵師済々Ⅱ」を開催いたします。江戸時代の上方面壇における百花繚乱の様相を紹介する「上方界限、絵師済々」のシリーズ企画第二弾になります。

18世紀の後半に京都で起こった円山・四条派による絵画様式の流行は、大坂にも伝わります。大坂ではその様式を学んだ、上田耕夫(うへだ こうふ、1760-1832)、長山孔寅(ながやま こういん、1765-1849)、上田公長(うへだ こうちよう、1788-1850)などが活躍しました。彼らには与謝蕪村(よさぶ せん、1716-1783)への私淑や、呉春(ごしゅん、1752-1811)との師弟関係など、二人への敬慕という共通点があり、その作品は、京都での流行をそのまま取り入れるのではなく、親しみやすさや気軽さといった、それぞれの個性が表れています。

本展では、大坂で活躍した三人の絵師とともに、彼らが憧れた蕪村・呉春の作品を紹介し、大坂における画壇の展開をご覧ください。

第1章 蕪村と呉春

与謝蕪村は池大雅と並び日本文人画の大成者と称されます。中国の画家の作品や画譜から学んだ画題や筆法を用いつつも、みずみずしく、情感溢れる作品を生み出します。それらには、もとなつた中国絵画の峻厳さはなく、温かみのある田園風景や村落など、日頃目にする自然や、穏やかで親しみやすい表情や仕草の人々が見られます。

呉春は京都の裕福な金座役人の家に生まれ、絵は俳諧の師でもある蕪村に学び、蕪村没後は京都を席卷していた円山応挙の画風を取り入れます。一時期京都を離れ、大坂の池田に拠点を移し、そこでは蹴鞠や謡曲なども嗜む、充実した日々を過ごします。池田時代には蕪村の画風を根幹として、写生的要素を加えるなど大変興味深い作品を制作しました。

本展で取り上げる耕夫・公長・孔寅が憧れ慕った、蕪村、呉春の優品を紹介いたします。



①与謝蕪村 桃林騎馬図
公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館

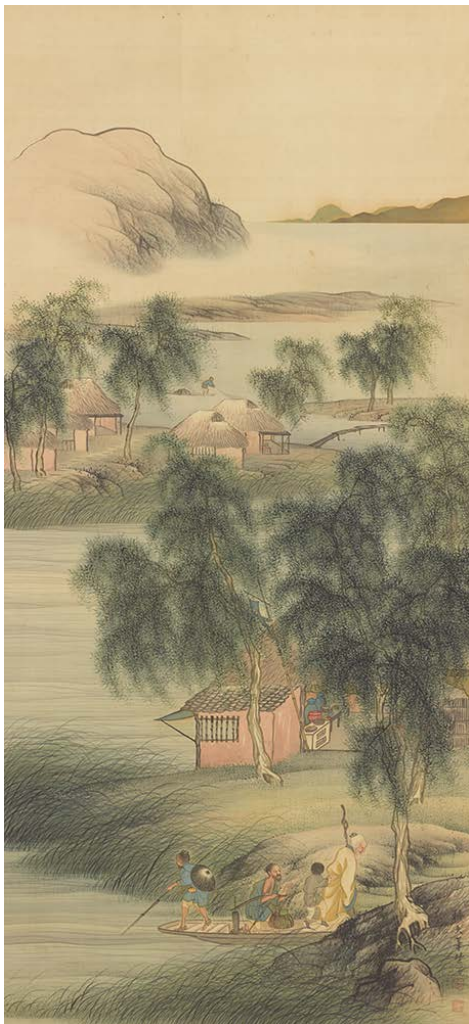


②呉春 酔杜馬上図
公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館

第2章 上田耕夫—応挙に学び、蕪村を慕う

上田耕夫は、京都にて円山応挙に師事しつつ、蕪村の画風を慕ったと伝えられます。今ではあまり知られていない耕夫ですが、呉春との交友が知られる儒学者の村瀬栲亭、博学多才の大コレクター木村蒹葭堂、自身が小説のモデルとなった上田秋成、大坂の豪商和田隆侯らと関わり、当時の文化ネットワークの中にいたことは確かです。京都と大坂を行き来しつつ活躍していたようで、晩年大坂に移りました。

山水を主題とする作品が比較的多く、それらはいずれも清々しく鷹揚な気分が漂っています。視点を固定した上で、明確なモチーフを整然と配置していくことなど、円山応挙の影響を感じさせる一方で、山や樹木の描写や画題選択などは蕪村を彷彿させます。応挙と蕪村の様式を交えた耕夫独自の画風を確立していたことがうかがえます。



③上田耕夫 青柳山水図 個人蔵



④上田耕夫 梅莊山水図 香雪美術館

第3章 上田公長—呉春を敬慕、器用な画業

上田公長は大坂で活躍し、呉春や大坂で活躍した中江藍江^{なか えらん こう}から絵を学んだと伝えられます。活躍の場は大坂にとどまらず、『紀伊国名所図会』（1838 刊）の挿絵を担当するなど、紀州藩の画事にも携わりました。

公長の画業で興味深いのは、呉春から応挙、蕪村へと画系を遡るような画題や画風の作品を制作していることです。応挙などが得意とした「牡丹孔雀図」といった大作や、円山派の美人を想起させる女性像を描き、同時に蕪村が俳画の描法を用いて描いた「奥の細道図」にも公長は挑戦しています。器用な画技と、平明であっさりとした画風から当時の大坂の人々に大いに受け入れられました。



⑤上田公長 奥の細道図屏風（部分） 個人蔵



⑥上田公長 水辺柳蔭亭図 関西大学図書館

第4章 長山孔寅—絵師で狂歌師、呉春の弟子

長山孔寅は出羽国（現在の秋田県と山形県）に生まれ、京都にて呉春に学び、大坂で活躍しました。絵師としてだけでなく、三條茂佐彦^{さんじょうも さ ひこ}という名で狂歌師としても活動し、狂歌本の挿絵を手掛けつつ、晩年には『貪着物語』という戯作も刊行しています。

人気絵師として幅広い画題をこなし、人物表現は円山・四条派の典型的な描法に立脚しつつ、顔貌や後ろ姿に特徴がみられます。また、点景人物は凹凸を強調した輪郭の顔、両足の広がった立ち姿で描かれます。狂歌師でもあったからか、作品には飄々とした雰囲気漂い、ひと目で孔寅の作品とわかります。呉春から学んだ画法を、大坂の人々の好みに合わせて独自のものとした、大坂画壇の実力者です。



⑦長山孔寅 西王母図
大阪市立住まいのミュージアム



⑧長山孔寅 木蓮に孔雀図
旧中西家住宅

スポット展示 上方界限、石済々

「石譜奇鑒^{せきふきかん}」は、28種類もの多彩な石を描いた、呉春の池田時代を代表する作品です。そこには、池田時代の交友関係、中国絵画学習の跡、基準となる8種類の印の存在など、呉春を研究していく上で重要な要素が多く含まれています。「石譜奇鑒」誕生には、中国憧憬の一つとしての愛石の流行など、当時の文人趣味が反映されています。師の蕪村も、日本の奇石を描くことや、俳画にも石を題材とするなど、石にまつわる作品を制作しています。

無機質なはずの石たちが、呉春の手にかかれば千変万化の万華鏡のように多彩な表情を見せます。決して見飽きることのない、石の世界をお楽しみください。



⑨ 呉春 石譜奇鑒（第5図） 個人蔵



⑩ 呉春 石譜奇鑒（第7図） 個人蔵



⑪ 呉春 石譜奇鑒（第18図） 個人蔵



⑫ 呉春 石譜奇鑒（第28図） 個人蔵

作品画像貸出一覧

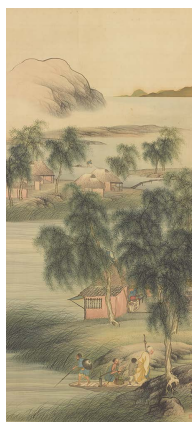
①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



作品画像貸出一覧

- ① よ さ ぶ そん 与謝蕪村 とうりん き ぼ ず 桃林騎馬図 江戸時代 18 世紀 公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館
- ② ごしゆん 呉春 すい と ぼ じょうず 醉杜馬上図 天明 2 年 (1782) 公益財団法人阪急文化財団逸翁美術館
- ③ う え だ こ う ふ 上田耕夫 せいりゆうさん すい ず 青柳山水図 江戸時代 19 世紀 個人蔵
- ④ う え だ こ う ふ 上田耕夫 ばい そう さん すい ず 梅莊山水図 江戸時代 19 世紀 香雪美術館
- ⑤ う え だ こ う ち ょ う 上田公長 おく ほそみち す びょうぶ 奥の細道図屏風 (部分) 江戸時代 19 世紀 個人蔵
- ⑥ う え だ こ う ち ょ う 上田公長 みず べ りゆういんてい ず 水辺柳蔭亭図 江戸時代 19 世紀 関西大学図書館
- ⑦ ながやま こういん 長山孔寅 せい おう ぼ ず 西王母図 江戸時代 19 世紀 大阪市立住まいのミュージアム
- ⑧ ながやま こういん 長山孔寅 もくれん くじゃく ず 木蓮に孔雀図 江戸時代 19 世紀 旧中西家住宅
- ⑨ ごしゆん 呉春 せき ふ き かん 石譜奇鑒 (第 5 図) 天明 3 年 (1783) 個人蔵
- ⑩ 呉春 石譜奇鑒 (第 7 図) 天明 3 年 (1783) 個人蔵
- ⑪ 呉春 石譜奇鑒 (第 18 図) 天明 3 年 (1783) 個人蔵
- ⑫ 呉春 石譜奇鑒 (第 28 図) 天明 3 年 (1783) 個人蔵

開催概要

会 期	2021 年 7 月 3 日（土）～ 8 月 22 日（日）
展示替え	前期：7 月 3 日（土）～ 7 月 25 日（日） 後期：7 月 27 日（火）～ 8 月 22 日（日）
休 館 日	月曜日＜ただし 8 月 9 日（月・振替休日）は開館、翌 8 月 10（火）は休館＞
開館時間	10 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）
夜間特別開館	2021 年 7 月 29 日（木）、8 月 19 日（木） ～ 19 時 30 分（入館は 19 時まで）
料 金	一般 900（700）円、高大生 500（350）円、小中生 200（100）円 ＊（ ）内は前売り（一般のみ）、20 名以上の団体料金 ＊前売り券は 7 月 2 日まで香雪美術館（御影本館）、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています
主 催	公益財団法人 香雪美術館、朝日新聞社
助 成	芸術文化振興基金
会 場	中之島香雪美術館 530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4 フェスティバルタワー・ウエスト 4 階 TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/ Twitter@kosetsu_museum
アクセス	Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋」駅 4 号出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅 12 号出口直結 Osaka Metro 御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅 7 号出口より徒歩約 8 分 JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約 15 分 JR 東西線「北新地」駅 11-5 出口より徒歩約 8 分
講 演 会	「京都と大坂の四条派絵師－江戸時代後期を中心に」 講師：岩佐 伸一さん（ いわさ しんいち 大阪歴史博物館学芸員）
【日 時】	2021 年 7 月 18 日（日） 14 時～15 時 30 分（受付開始 13 時 30 分）
【会 場】	中之島会館（中之島香雪美術館隣）
【参 加 料】	500 円（展覧会観覧には別途入館料が必要）
【定 員】	120 名（予定）
【応募開始】	5 月 1 日（土）
【応募方法】	1 通で 2 名様まで応募可能。希望する講演名、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。
メール	以下アドレス宛にお申し込みください。詳細を返信します。 E-mail：n-kouenkai@kosetsu-museum.or.jp（※左記アドレスを受信可能に設定してください）
往復ハガキ	郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。 返信ハガキで参加証を郵送します。 【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4 階 中之島香雪美術館「上方界限、絵師済々Ⅱ」展 講演会係

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 ☐ する (撮影機材 ☐ スチール ☐ ENG ☐ DVC) ☐ しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
---------	---------------------

注 意 事 項

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
- ・原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。
- ・掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
- ・画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
- ・サイズは、(web掲載用)長辺 1000px 100dpi (紙媒体用)長辺 1000px 300dpi まで。
- ・ウェブ掲載の場合、掲載期間を最長6ヶ月とし、その後は削除をお願いします。それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」 広報担当
TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階